

大学入試改革に関する議論の推移（各提言・答申等の主なポイント）

資料5

	教育再生実行会議第4次提言 (平成25年10月)	中央教育審議会 答申 (平成26年12月)	高大接続システム改革会議 最終報告 (平成28年3月)	高大接続改革の実施方針 (平成29年7月)
趣旨	・知識偏重の1点刻みの大学入学選抜からの脱却、学力不問の選抜になっている一部の推薦・AO入試の改革が必要 ・高校・大学、大学入試の在り方について、一体的な改革を行う	・これからの時代に求められる力を育成するための初等中等教育から高等教育まで一貫した改革 ・「基礎的な知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体的に学習に取り組む態度」という三要素から構成される「確かな学力」を育む	・中央教育審議会答申の理念を踏まえた改革内容を実施に移していくための具体的な方策を示す	・現行の「大学入試センター試験」に代えて平成32年度から「大学入学共通テスト」を実施 ・「高校生のための学びの基礎診断」の運用を開始 ・各大学の個別選抜について、学力の3要素を多面的・総合的に評価するものへと改善
大学入学希望者向け共通テスト	○「 達成度テスト（発展レベル） 」 ・大学教育を受けるために必要な能力の判定のための試験 ・ 複数回挑戦 、外国語、職業分野等の 外部検定試験の活用 を検討する ・結果の 段階別表示 、各大学の入学選抜の基礎資格としての利用など工夫する ・将来的に CBT方式 、言語運用能力、数理論理力・分析力、問題解決能力等を測る問題の開発も検討する	○「 大学入学希望者学力評価テスト 」 ・知識・技能を単独で評価するのではなく、知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を中心に評価する ・資格試験の利用を促進し、 年複数回実施 する ・ 段階別表示 による成績提供 ・ CBT方式 を前提に開発する ・ 英語4技能 を評価できる出題や 民間資格・検定試験 を活用する ・「 記述式 」の導入 ・「 合教科・科目型 」「 総合型 」の問題	○「 大学入学希望者学力評価テスト 」 ・知識・技能を十分有しているかの評価も行いつつ、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する ・ 複数回実施は、日程上の問題など引き続き検討 する ・評価結果は 段階別表示 する ・ CBT は専門家等の意見も踏まえて十分に検討する ・ 英語4技能評価 を推進する。「話すこと」についてはH32年度当初からの実施可能性について十分検討する。 民間資格・検定試験の活用 も有効 ・当面、 国語・数学で記述式を導入 （H32～35は短文、H36～はより文字数の多い記述）、実施時期も検討 ・ マーク式 もより思考力・判断力・表現力を重視した作問へ改善する	○「 大学入学共通テスト 」 ・知識・技能を十分有しているかの評価も行いつつ、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する ・設問、領域、分野ごとの成績、全体の中での当該受験者の成績の 段階別表示 ・ CBT については、引き続きセンターで調査・検証 ・ 英語4技能 を評価するため、 民間の資格・検定試験を活用 。共通テストの英語は、認定試験の実施・活用状況等を検証しつつ、H35年度までは実施 ・H36年度以降は教科・科目の簡素化を含めた見直し ・ 国語・数学で記述式を導入 （H36年度以降、 地歴公民分野や理科分野等でも記述式を導入する方向で検討 ） ・ マーク式 も思考力・判断力・表現力を一層重視した作問へ見直す
基礎レベルのテスト	○「 達成度テスト（基礎レベル） 」 ・基礎的・共通的な学習の達成度を客観的に把握し、学校の指導改善や生徒の学習改善に活用 ・各大学の判断で 推薦入試やAO入試にも活用可能 とする ・高校在学中に 複数回受験 できる仕組み	○「 高等学校基礎学力テスト 」 ・高校生が基礎的な学習の達成度の把握、自らの学力を客観的に提示できるようにする ・進学時の活用は、 調査書に結果を記入するなど参考資料の一部として使用 ・在学中に 複数回受験可能、成績を段階で表示 ・ CBT方式 を前提に開発 ・英語等は 民間資格・検定試験 も積極的に活用	○「 高等学校基礎学力テスト 」 ・高校段階における生徒の基礎学力の定着度合いを把握・提示できる仕組み ・H31～34年度の試行実施期には大学入試や就職には用いず、学習改善等に用いながら検証を行う。H35年度以降の大学入試等への活用は更に検討する ・ IRT、CBT導入の検討、段階別の結果提供 ・ 民間事業者の活用 を具体化する	○「 高校生のための学びの基礎診断 」 ・高等学校教育における多面的な評価の推進の一環として、高校における多様な学習成果を測定するツールの一つとして活用できるよう、文科省において一定の要件を示し、民間の試験等を認定する仕組み ・結果の副次的な利用については更に検討する
各大学の個別選抜	・各大学の アドミッションポリシー に基づき、多面的・総合的に評価・判定する ・ 達成テスト（発展レベル） を積極的に活用する ・面接、論文、高校の推薦書、生徒が能動的・主体的に取り組んだ多様な活動、大学入学後の学修計画案を評価するなど 多様な方法による入学選抜による入学割合を増加 させる	・学力の3要素を踏まえた 多面的な選抜方法 をとる ・具体的な選抜方法等に関する事項を各大学が アドミッションポリシー において明確化する ・ 大学入学希望者学力評価テストの活用 ・多面的・総合的な評価への転換を図るため、一般入試、推薦入試、AO入試の区分を廃止し、 大学入学選抜全体 の共通の 新たなルール を構築する	・学力の3要素を 多面的・総合的に評価 する入学選抜への改善 ・入学選抜で学力の評価が十分に行われていない大学における入学選抜の改善（ 多様な評価の方法、出題科目の見直し、作問の改善、大学入学希望者学力評価テストの活用、調査書の有効な活用等 ） ・AO、推薦入試等の実施時期のルールを策定する	・入試区分について、各々の特性をより明確にする観点から、「 一般選抜 」「 総合型選抜 」「 学校推薦型選抜 」へ変更。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜でも、 知識・技能、思考力・判断力・表現力を適切に評価 ・合格発表時期について ルール化 ・調査書の記載内容の改善
新テストの実施主体	・実施体制等について、関係者の意見も踏まえ、中央教育審議会等で専門的・実務的に検討されることを期待する	・ 大学入試センターを改組し 、新たなセンターとする ・新センターは、新テストの実施と方法開発、個別選抜やアドミッション・オフィス強化等の方法開発などの支援、面接や集団討論等を含むテスト方法開発などの支援、調査書の評価等を含む評価に関する方法開発などの支援等を目的とし、名称についても、その機能を体现するものに要する	・大学入試センター試験の作問や実施・運営等の実績に鑑み、 大学入試センターを抜本的に改組した 新たなセンターにおいて実施することが適当である ・今後、文科省において、実施主体としての適切な在り方を検討し、可能な限り速やかに結論を得て、実施体制を具体化	・共通テストは利用大学が共同して実施する性格のものであることを前提に、大学入試センターが問題の作成、採点その他一括して処理することが適当な業務等を行う ・多数の受験者の答案を短期間で正確に採点するため、その能力を有する民間事業者を有効に活用する
高校教育改革	・基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等について、高校において共通に身に付けるべき目標を明確化する ・生徒の能動的・主体的な活動への取り組みを指導、支援する	・高大接続改革と歩調を合わせて 学習指導要領を抜本的に見直し 、育成すべき資質・能力の観点からの構造の見直しや、 アクティブ・ラーニング への飛躍的充実を図る ・評価について、 生徒の多様な学習成果や活動を評価 する方法に転換	・育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の見直しなどの 教育課程の見直し ・ アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善と教員の指導力の向上 ・学習評価の在り方を見直しや指導要領の改善などの 多面的な評価の推進 、多様な学習成果を測定する 各種検定試験の普及促進	
大学教育改革	・教育課程の点検・改善、教育内容や教育方法の改善に取り組むとともに、厳格な成績評価・卒業認定等により学生の学修時間を増加させる ・学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法（ アクティブラーニング ）、双方向の授業展開など教育の質的転換を図る	・個々の授業科目等を越えた大学教育全体としての カリキュラム・マネジメント を確立する（ナンバリング等）とともに、主体性を持って多様な人々と協力して学ぶことのできる アクティブ・ラーニング へと質的に転換する	・ カリキュラム構成の見直し 、学生の 能動的な学修 を重視した指導方法の導入、学生の学修時間増加に向けた指導、 学習成果に係る評価の充実 ・3つの方針に基づく大学教育の充実 ・各大学における3つの方針と入学選抜方法との関係を重視した 教学マネジメント の確立	